場所　〒502-0812 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」

わいわい、がやがや、みんなで哲学

哲学カフェ de ぎふ

千秋（せんしゅう）まちかど文庫　通信

第164号
2022年3月

運営委員会発行（記録:安藤明弘、編集:中川健史）（主宰:吉田千秋　090-7917-9602　yoshida0@sepia.ocn.ne.jp

「世界に広がる反戦平和の声・・ロシアはウクライナから撤退せよ！」

吉田千秋（主宰）

誰もが予期せぬその暴挙は突如行われた。2月24日ロシアは、ウクライナへの軍事侵攻を開始した。かなり前から国境に大群を配備し、ベラルーシとの実践的軍事演習を重ねてきた。それは東ウクライナの2紛争地域への圧力とみられ、たとえ軍事侵攻しても、この地域への侵攻とみられていた。だが何と、東部地域だけでなく、先年併合した南部クリミア、北部からも侵攻し、防空施設、空港を制圧し、第2都市ハリコフ、首都キエフ支配（在日ウクライナ人の集会:中日新聞）に向かっている。現政権の転覆から、ウクライナ全土の支配をめざしているような勢いである。

国連憲章第1条は、「国際の平和及び安全を維持すること」を掲げ、加盟国の「主権平等の原則」を掲げている。この原則を「安全保障理事会」の常任理事国ロシアが平然と破ったのである。当然にも世界各国から非難の嵐が起きた。ベルリンで、ロンドンで、パリで、そしてモスクワを始めロシア国内の各地で。さらに、東京、名古屋、沖縄、日本の各地で。

日本の多くの人は、国際化著しい今日でも、ウクライナやその国に暮らす人々とあまりなじみがない。ボクもその一人だが、胸に刻みつけられたシーンがいくつかある。その一つは、ずいぶん前に観た、映画史に残るエイゼンシュタイン監督『戦艦ポチョムキン』である。1905年のロシア第一次革命に加わった戦艦ポチョムキンの反乱の話だが、黒海沿岸の「オデッサの階段」で起きた虐殺光景が鮮明に残っている。イタリアンリアリズムの巨匠デ・シーカ監督『ひまわり』で映し出されたウクライナの広大なひまわり畑もそうだ。さ

らに、2008年5月、東京幕張メッセで開かれた「9条世界会議」で聞いた「ウクライナの歌姫」ナターシャ・グジーの澄み切った歌声も忘れられない。モスクワ、ペテルスブルクは行ったことはあるが、キエフなどウクライナもぜひ行きたいと思っているが果たせていない。

ともあれこの歴史のある、美しいウクライナが「兄弟国」ロシアによって主権が侵され、殺し殺される無残なさ殺戮の地と化している。絶対に許すことはできない。ロシアは直ちに軍隊を引き上げるべきである。

日本は、この機に「防衛力のさらなる強化」やや「核兵器共有化」 ではなく、全力を挙げてこの惨禍を回避すべく外交的努力をすべきである。戦争のない世界をあらためて強く願うばかりである。

（主宰　吉田千秋）

＊3月例会は急遽テーマを変更し、「プーチンのウクライナ侵略にどう立ち向かうのか？」とします。例会参加有無関係なく、意見をお寄せ下さい。

＜前号感想、意見、便りなど＞

【2月例会はコロナ感染防止のため休会になりました。しかし、予定テーマ「日本は民主主義国家なのですか？」をめぐって、多くの方から意見を寄せていただきました。「前号を読んで」に続けて掲載します。】

＊なお、写真は「岐阜県総合医療センター」入院中に吉田が撮ったものです。

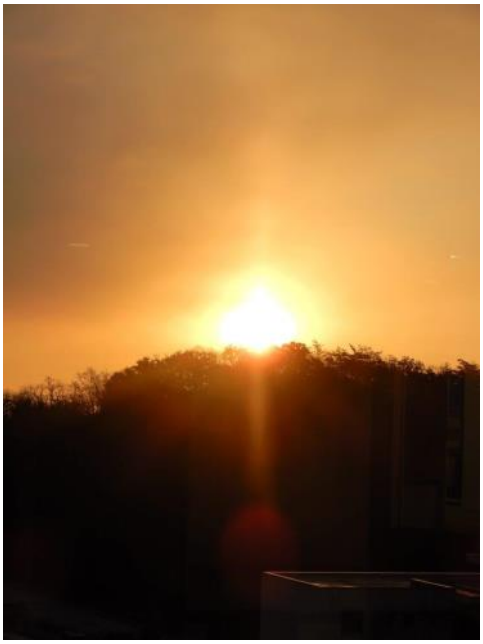
○＜前号を読んで‥ 若者が希望を持てる未来へ＞

若者が未来に希望があることを感じられなくなっているのは、閉塞感漂う今の日本の姿がその背景にあると思います。あの東大前の殺傷事件などは、コロナ禍の中でいっそうはっきりと見えてきた、今までの日本の、デリカシーを欠いた非人間的な学校教育制度の中で、心を傷つけられ、人間の心も、人生の希望も失っていく姿の現れであるようにも思いました。

ニュースで“人間の心が壊れている”ように感じられる事例が増えているように思えて長いですが、あの殺傷事件もまさに、コロナ禍とあいまって、今の日本の学校制度の中で生み出されるべくして出てきた事例のような気がしました。

被害に遭われた方は言うまでもありませんが、犯行に及んだ東大医学部志望だった高校2年生の生徒も、この日本の学校制度の中で生み出された犠牲者なのではなかろうか‥と。

こんな“年明け”ですが、なんとか、明るい希望を見出していきたいと思っています。　（あ）



○＜市民が民主主義を取り戻した地元の体験＞

それは地元、岐阜市長良校区でのこと。地元小学校の老朽化に伴い新築建替えの際「プール」も取り壊され公民館2階にプールを建設する案であり、生徒は民間プールまで出掛けての水泳の授業だった。

ところが岐阜市教育委員会は突然、市議会で可決した「公民館2階にプールを建設する予算案」を無視し、「プール建設費を削減する議案」を市議会に提出、「プールは建設しない」と発表。住民は、それは約束が違うと有志は「プール建設を要望する署名（8000筆）」を岐阜市長及び教育委員会へ2020.11.11（偶然、78歳の誕生日）に提出した。

本件は、（市議会＝立法）の決めたことを、（市・教育委員会＝行政）が無視したケースに（住民＝主権者）が立ち上がったケースである。我々

は民主主義を取り戻すため、(予算案の執行＝プールの建設)を訴えた結果、2020年12月に市議会は「速やかに予算執行を求めるに決議」を全会一致で決議。

現在「2階にプールのある公民館」の建設は順調に進んでいる。夏にはプールの生徒の賑やかな声が聞える。市民が民主主義を取り戻した貴重な体験だ。　(井口)

○＜民主主義と基本的人権＞

日本は主権在民と普通選挙による政治体制と基本的人権を憲法に体現させ一応民主的国家と言う事になっている。実際の世の動きは“実現半ば”と言うところであるが、文章化された憲法があることは重要なことである。

未来に向かって専制政治派？と民主勢力の引っ張り合いになっている。選挙の投票率は過半数以上が望ましいところだが、30％台まで落ち込んできている。日常生活の中での憲法の実現、政治への関心(＝選挙への関心)を強める努力をしていきたい。　(アダム・スミス)

○＜民主主義とは何か＞

私は、「一人は万人を、万人は一人を守る！」という言葉が好きです。宮沢賢治の「世界全体

が幸福にならなければ、個人の幸福はありえない」という思想に通じるからです。ところで、「日本は民主主義国家なのですか？」ときかれて、「然り！」とは言えません。「民主」というからには、「民意」を重んずる、社会的・政治的システムが、うまく機能していなければならないと、思います。政治家を志す人は、「民意」とはなにかを知るべきで、それを公平にくみ上げる努力をしてほしいものです。

しかし、「民意」の中身は多数派の意見や考えが主体というわけではない。多種多様ではあるが、少数派であるがゆえに、無視されている人々の意見や考えも大事にすべきであろう。生きづらい世の中で、苦悩する弱者、病人、貧困者、障碍者など、医療・福祉の支援を必要とする人々を救い上げることが、「民主的」国家の「運営」といえよう。

でも、現実には毎朝の新聞報道を見る限り、悲惨な事件や問題が、あまりにも多く、枚挙にいとまがない。そして、腹の立つ一日が始まる。コロナパンデミックで絶望する人も急増している今日、事態は深刻である。日本国憲法の3原則、「国民主権」、「基本的人権の保障」、「国際平和主義」の基本原則に基づいて、「新しい資本主義」ではなく、「新しい社会国家」像を作り上げていく努力が必要ではないかと考える。　(MS)

○＜民主主義って何?
　　あちらを立てればこちらが立たないもの＞

　20年以上も前だと思います。社会がよくなるために何が必要なのか、みたいな問いかけに、まだご存命だった哲学者の鶴見俊輔さんが、「男が女を殴らなくなれば、日本はよくなります」と応えていらした記憶があります。民主主義というとまず思い出すのはこの言葉。

　でもそれではあんまりにも人任せなので、自分の考えも書きます。

　民主主義は多数決ではないとよく言われますが、それはなんでもかんでも数で押し切られてはたまらないということなんだろうと思います。数は大切、たぶん。そうでなければ香港やミャンマーの人々が公正な選挙を求めて斃れていく必要はなかったと思うから。

　民主主義は数だけではないけれども数でもある。数だけれども数だけあればいいものでは決してない。民主主義は矛盾を抱えた不安定なものですが、矛盾があって初めてまっとうに機能するんだと思います。だから私たちが本当の意味で賢くならなければ、このめんどくささに嫌気がさして手放してしまう気がします。

(MIEK01)

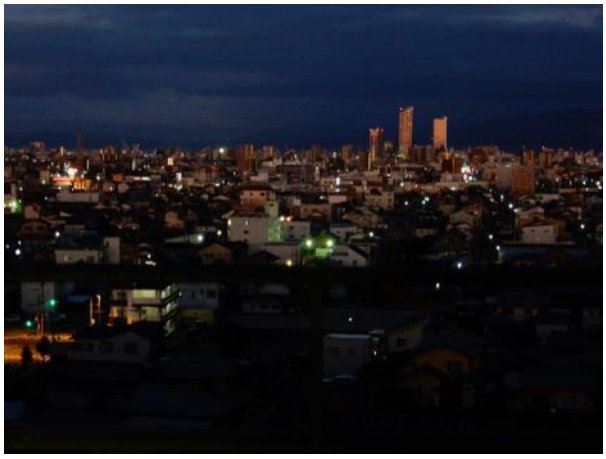
○＜明るい未来を信じて次世代に託したい＞

　私は民主主義をはじめとして、社会主義とか資本主義についてよくは分からない。自分に出

したこれからの宿題だと思っている。ソ連がロシアに変わって30年。中国も改革解放政策によって、今や日本を追い抜いて米国とトップを争っている。広大な面積を持つ中国とロシア。日本とは主義・主張・価値観が違っていても当たり前だと思うが、人間の本質としては同じに違いない。衣食住を生活の基本として、心理的には競争心を根っこに持っていることは、誰も否定できない。そして、その競争心が人を奮い立たせることも。

　他が居ての自分、他人は自分の写し鏡。1人だけでは生きていけないのが人間だけれども、人より優位に立ちたいと思う自分を垣間見てしまったとき、愕然とする。人間が人間である限り戦争はなくならないのか。情けないが、この年になって、そのあたりをウロウロしている。「武力で平和は守れない」…。考えてみればそんなことは百も承知なはず。ではどうすれば？　必ず死に往く我々が“金だけ、今だけ、自分だけ”では、後に続く子どもたちの明るい未来は望めない。明るい未来を信じて、次世代に託す使命を我々は担っていることを自覚したい。　　(hirasumi)

○民主主義[民主政体]を辛抱強く営むことは、社会の長期的利益や持続可能性を考えた場合、全体主義[ファシズム]よりもましな選択だと思います。しかしそれを辛抱強く営むにはいろいろな条件が必要で、今の日本人にはハードルが高



く、現在の日本は維新の台頭が示すように全体主義に侵蝕されつつあるように感じます。

絶望的な意見を述べますが、なぜ維新が躍進したのかを考えると日本人はファシストが多いからというのが一番納得できる理由のように思います。もともと同調圧力が強く、出る杭は打たれる日本社会はファシズムに親和的でなおかつ今の学校教育機関はファシスト養成所と言っていいほど画一的で、多様性とは遠く離れた教育がなされている気がします。その部分を正確に認識し、真剣に対応しない限り日本に民主主義は定着しないのではと感じました。　　（たなか）

○＜日・比、どちらが人権・主権を尊重？＞

教育社会学の本田由紀氏によれば、日本人は最も相互扶助が下手で、他人との共同をつくれない国民だという。氏は国連やOECDなどによる国際統計データーを比較し、日本社会の特異性を指摘してきた。

例えば、見知らぬ人が助けを求めている場合、手を差し伸べるか？の問いに、NOの割合が最も多い国の部類に日本は入る。また、隣人と親しい関係にあるか？信頼できるか？に、同様NOの最多グループで、家庭に対する満足度でもやはり最も低い国の一つだと、数値を紹介している。（ユーチューブ　デモクラシータイムの、番組「ヤバイ日本のあぶり出す」を参照）

ここから「おもてなし」はタテマエで、お互いが冷たくさみしい集団との見方も成り立つ。氏は「ヒトに迷惑をかけるな」と集団規範や体面を守る傾向の強い裏で寛容さに欠け高い自殺率にも繋がってきた、とも。この点まだ「個人の尊重」が弱い前近代かもしれない。

片やフィリピンは上記の各問いにYesが最も多い国の一つで、この傾向はラテン系に多いそうだが、比も長くスペインの統治下にあった。確かにかれらは寛容で陽気、自殺も少ない。だが、時間や規律を厳守することは苦手だ。バス停に時刻表すらない。

さてこのフィリピンは安全保障や外交面でも日本とは対極の選択をしてきたことでも知られる。1992年には米軍基地を撤去させ、2016年には中国の南シナ海進出問題では国際司法裁判所に提訴し勝訴。主権を守る態度が毅然としている。

近年国際社会において米の「指導力」が落ち続ける中、今までの国際秩序の柱が取り換えられる日が近い。果たして20年後30年後の世界で、日比どちらのモデルが国民の幸せを実現できるのか？データーや事実で答えを出さない限り、いくら強がりを言ってみてもみっともないだけだろう。　　（フィリピンウォッチャー）

○＜まともな保守主義を育てられなかった不幸
―日本の「民主主義」について今、思うこと＞

この原稿を書いている本日2月23日の夕刻、あるテレビニュースで、ウクライナへの介入を強めるロシアに対してアメリカ、EU、日本などが経済制裁を行うことを伝えていた。今回（も）、ロシアは核兵器の使用も辞さない姿勢を明確にしている。二週間ほど前、プーチンは「われわれには核がある」と公然と言い放った。背筋が凍る。だが、それ以上に、日本政府が直ちに「遺憾の意」を表明しなかったことに驚いた。日本のメディアもことさらに取り上げることはなかったように思う。そのことにも驚いた。私ばかりが過敏なのだろうか。

別のテレビニュースでは、将来的には、現在稼働中の原子炉に代わって、小型原子炉の利用を進めたいというテーマで、研究者や政治家が話

し合っていた。まるで古くなった水道管を取り換える時期とコストについて仲良く話しているような感じである。愕然とした。
二度の被爆体験からまだ100年もたってはいない。福島原発事故はまだ終わっていない。汚染水の問題も、廃炉の見通しも、被災者の生活といのちの立て直しもまだ何も終わっていない。なんでこうなってしまうんだろう。
　伝統を重んじるべきだというのがこの国の自称「保守主義者」だが、昨今、彼らほど伝統を、祖先を軽んじている集団はないのではないか。伝統を大切にするというのは、死者を忘れないこと、そして死者の想いを政治に参加させることだ。
　まともな保守主義を育てられなかったことが、日本の民主主義の大きな欠陥であり、不幸だと思う。　　（MIEKO 2）

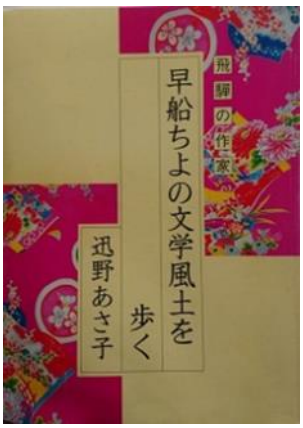
＜大阪だより　その3＞　「「大阪都構想」失敗・・でも維新は人気持続」

　景気低迷に喘ぐ現状打開、経済都市への復活を切望する大阪人は、当初、大阪でオリンピック、万博、カジノリゾートそして都構想で、何かとてつもない大きなことをぶち上げて激変することへの熱に浮かされていたと思います。全く政治は初めてという新人の維新議員が多く当選し、現職の府・市会議員も維新に鞍替えして、議会の勢力が変わっていきました。
　維新の最大の政策目標「都構想」で、府市の二重行政のムダを無くすとマスコミもこぞって大宣伝しました。大阪の人々は、どこがムダなのかじっくり考える生活の余裕も無く、住民投票では最初は賛成派が優勢でした。しかし、「都構想」とは名ばかりで「大阪都」にはならない、大阪市民の税金を大阪府に吸い上げられ、大型公共事業（カジノへの道路や地下鉄整備など）に使われて、大阪市の福祉や住民サービスが低下する（病院・図書館・プールの削減など）と生活実態に即して訴え、歴史的な「大阪市」の価値を潰されるのだと大阪人の自尊心に訴えたことで、反対派が辛うじて勝ちました。
　しかし、政策には反対でも、「橋下さん好きやわ」「吉村さんはようがんばってはる」と維新人気は衰えません。これはマスコミに出ずっぱりの影響が絶大ですが、維新の大阪府下の首長や地方議員が増え、議会での実績を強調し、さらに

（2020大阪市廃止・住民投票）

「どぶ板」の地道な活動もあるのです。朝の駅頭で若者と一緒に宣伝したり、商店街を回ったり、街頭ポスターが目立ちます。
　そして、国政選挙では自民・公明ではなく、野党共闘にも加わらない独自のポジションのように見せています。維新政治は自民党政治と矛盾するものでなく、より新自由主義的改革＝福祉・教育での自己責任を追及するものですが、政権与党への失望批判が維新への期待に繋がっているのです。　　（宮本亜紀）

＜この一冊＞　迅野あさ子著　『早船ちよの文学風土を歩く』(大衆書房　1996)



早船ちよは飛騨に生まれ16歳まで育ち、滋賀県、長野県下諏訪で働き、勤めにより上京したのが19歳だった。20歳の時、井野川潔と結婚し東京蒲田に住んでいた。23歳（1937年）から科学幼年文学、科学童話を多数発表発刊している。その後1944年に埼玉県川口市に”疎開”して終戦後もそこに住み続けた。40歳代なかばに（45歳＝1959年）長編青春小説『キューポラのある街』の連載を開始し、その後、長編小説として『峠』『湖』『街』を発表している。

迅野あさ子は、早船ちよの一家が不況に抗して生きた飛騨―下諏訪でかつての関係者、知人を訪ね、そこにいた人たちと面談している。その中に「大正自由教育」が広がっていたことも出てくる。キューポラの話では地域事情と時代の流れの中での鋳鉄産業について埼玉県川口市で鋳物業者や関係者に取材、調査し記述している。『キューポラのある街』とその後の3部作について……”ジュン”と”ちさ”二つの人間像は「鋳物工業の街」と「山国飛騨」、また、1960年代と1930年代との相違はあれ、そのモチーフ性において、重なりあうものであると言える。‥と記している。

＊発刊元の「大衆書房」は、長らく神田町に店があった、岐阜の地方書店。　（B・Taguchi）

新しく設けます。ぜひ投稿願います。

＜お薦め番組＞「関口宏のもう一度！　近現代史」　BS・TBS 毎週土曜12:00～12:54

この番組は、関口宏が近現代史研究の第一線で活躍している保阪正康氏をパートナーに、明治維新から現代までを分かりやすく解説する教養番組である。2018年（令和1年）10月から始まり、今年（2022年）1月29日は第115回で、1948年（昭和23年）1月後半で、主に東京裁判の判決を扱っていた。

各回その年の重要な出来事を年表、図、写真を取り混ぜ、ポイントを外さず、丁寧に説明する。関口が取り扱うテーマや事件の内容を伝えた上で、いくつか質問し、それに保坂が軽妙に応え、見事なコンビで進行する。

ことに近現代史は学校では十分に教えてもらわなかったので、大変勉強になる。そればかりでなく、様々な知識を積んだつもりでも、いつも新たなことを知らされ、この短い時間に考えさせられることがしばしばある。

たとえば一番最近の「東京裁判」について。死刑は陸軍の軍人が中心で、非軍人は広田首相のみだったこと、死刑執行は当時の皇太子（平成天皇）誕生日に行われ、その翌日に岸信介や児玉誉士夫などの他のA級戦犯が訴釈放されたことなど。さらに、アメリカの一弁護人は、原爆投下の責任者をなぜ裁判にかけないかの意見を述べたことなど、意外な点も知らされた。

ともかく、楽しく勉強でき、考えされる貴重な時間となっている。刊行本もあるが、まだまだ続きそうなので、ぜひ観ていただきたい番組である。　（sensyu）

哲学カフェ　第27期(2022年前半)例会予定

＊毎月第2木曜日、午後7:00～9:00 ふれあいスペース
⇒ コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

第163回例会 1月13日(木)	「世の中を明るくするには何が必要か？」 ＊コロナ禍2年。慣れるどころか、第6波も心配で、疲れだけが蓄積するこの頃。 ＊気候危機、核兵器問題、加えて改憲勢力の台頭。希望をどこに見出すのか。 **終了しました**
第164回例会 2月10日(木)	「日本は民主主義国家なのですか？」 ＊バイデン大統領主催の「民主主義サミット」に、中国は反発。日本はもちろん参加 ＊でも、「わが政府一党独裁似たような」状況あり。民主主義と専制、あやしい区別 **休止します**
第165回例会 3月10日(木)	「しのびよる老い、それにどう向き合うのか？」 ＊ ＊だが、老人当人の多くはたくさんの心配を持っている。どう終活していくのか。 **テーマ変更「プーチンのウクライナ侵略にどう立ち向かうのか？」**
第166回例会 4月14日(木)	「天皇制・皇室のいま、これからどうするの？」 ＊昨年メディアがむやみに取り上げた真子さん結婚問題。放っておいたら良いのに。 ＊肝心の女性天皇や女性宮家の問題については、またもや放置。どうするのかね。
第167回例会 5月12日(木)	→　希望テーマお寄せ下さい。
第168回例会 6月9日(木)	同上
第169回例会 7月10日(日)	同上 →創立14周年記念行事を3年ぶりに開催めざします。

哲学カフェの運営資金の協力 も、よろしくお願いします。
口座記号・口座番号 00810 1 142912
加入者名　哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫
「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !!
http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェdeぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願います。友人・知人に拡散いただければ幸いです。

★とうとうコロナ・ウィルスが身内にも闖入し、家庭内隔離？や濃厚接触家族？故の自粛を様々に強いられたようだ。幸い症状は軽症で済んだとのことだが、自営の息子はピークアウトまで休業、孫は学校を10日ほど休んだ、という。遠くで閉じこもる彼らに、うちで採った野菜に保存食品を加え、さらに気分晴らしにでもなればと、一冊の童話本を添えて送った。

★世界中で猖獗を極めるこの感染症、6回目のピーク期となっても正体がもう一つ解らない。ために、陰謀説など根拠が薄弱な言説が広まりやすく、ストレスから反知性のマスヒステリックな人々を生んでいる。

★その典型は一昨年の米大統領選で露わになった「トランプ」現象で、政治的意図も絡んだ。西欧各国でもノーマスク・ノーワクチンを求めるデモが頻発した。この日本でも、「覚醒」を叫ぶ神真都Q(やまとキュー)なる運動がSNSで広がり、先月9日岐阜でも百人余が神田町を行進した。

★時として、子どもにとって、今のコロナ騒動がどう映っているかを想像してみることがあり、背筋が寒くなる。子どもだから、分からないことには大人がなんとかしてくれると思うものだが、学校では一日中マスクをつけ、「大声を出すな」・「じゃれあってはいけない」・そして「黙食」、学級閉鎖となればタブレットで「黙学」。これでは大人ですら息が詰まるだろう。

★見えない敵に我慢を強いられ続け、異議申し立てもできない共同生活。その上に、家族に感染者が出て、誰かが入院となれば、もう泣くしかない。それほど現代の若い子持ち家族の基盤はもろい。

★孫に贈る本は「エルマーとりゅう」にした。「悪い」人間のイジメを恐れる幻のりゅうを、勇気と知恵と助け合いで解放する、友情のファンタジーだ。いろいろ不安はあっても、せめて心の窓を開け、エルマーを呼び込んでみたら！というメッセージのつもりだが、小学一年生に伝わるものだろうか？

（大橋健司）